

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

宗教学法人カトリック福岡司教区 小倉カトリック幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・円満な家庭を中心にし、その子どもを養育する責任者である保護者を助ける教育をする。
- ・キリスト教精神に基づいて、しつけ、および道德教育を行う。
- ・年齢に応じた体づくりにより、子どもの将来の豊かな人格を目指す自主・自立の精神を養う。
- ・集団生活を通して、協調性と人々への思いやり、心の豊かさを身に付ける。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

本園の教育理念・教育方針のもと、その教育目標に沿った評価項目について自己点検・自己評価を実施することによって、教職員が客観的に自らを振り返り教育内容の改善に取り組んでいく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

	評価項目	評価	取り組み状況・結果
1	子どもの命を守るための日頃の訓練や園バスなど置き去り防止の対策を行う。	B	園内研修により、職員間で災害のマニュアルは共有しているものの、特に子どもたちの不審者対策の訓練は不十分であった。園バスに、置き去り防止の装置を取り付け、機械だけでなく今まで同様、目視での確認を行い2重チェックに努めた。園外も含め、常に人数確認を行うよう職員の意識は高まっている。
2	様々な研修に参加し、情報交換を行い、保育の質・教師の資質の向上を目指す。	B	参加した研修内容を年度途中にも保護者にお知らせすることにより、保育を見直すことが意識的にできた。子どもたちのの自発性を尊重した保育に繋がっていた。不適切保育に関しても、職員会議で度々注意を促し、日頃の保育の見直しを行った。
3	コロナウイルス5類感染症移行により、保護者の行事の参加の仕方を見直す。	B	保護者が園に来られる回数・人数は改善でき、子どもたちの励みに繋がった。ゆとりある保育は困難であったが、子どもたちが楽しみながら自主的に取り組む姿が見られた。

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価	理由
B	コロナウイルス5類感染症移行に伴い、行事への保護者の参加の機会が増え、子どもたちにとっても大きな励みになった姿が見られた。コロナ禍中のようなゆとりのある保育とまではいかなかったが、活動に対して子どもたちが自主的に取り組む姿が見られ保育の充実にも繋がった。安全危機管理において防犯訓練を充実出来るような保育計画の見直しが必要。より丁寧な支援、安定した保育を行うためにも人材確保が大きな課題である。

5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
1 安全危機管理	安全危機管理マニュアルの中で防犯訓練の計画を見直し実行する。
2 教師の資質向上	様々な研修に定期的に参加し資質の向上を目指し保育に活かす。
3 保護者との連携	様々な情勢に対応しながら行事参加への取り組みや情報の発信の仕方。

6. 学校関係者の評価

- 夏祭りなど保護者が参加できる行事が増えて良かった。行事の回数は適度だった。
- 防犯対策においては継続的な訓練が行えるよう充実した指導計画の編成に取り組んで欲しい。
- 人材確保は大切であるが、保護者で手伝える事等、協力していきたい。

学校評価委員
学校評価委員
委員会実施日

印
印

令和6年 2月 20日